

佐用高等学校
同窓会報

塔 陵

発行所
兵庫県佐用郡佐用町佐用260

兵庫県立
佐用高等学校同窓会

電話 0790 (82) 2434代
FAX 0790 (82) 2719

<http://www.hyogo-c.ed.jp/~sayo-hs/>

印刷所
谷本弘輝堂

Sayo Collection



11月3日 佐用町文化祭

温かいメッセージを繋いで！
つな



同窓会長 谷本 学

高校21回生（昭和四十四年卒）

大撫山からの寒風が吹き降りる佐用高等学校のグラウンドで、今日も生徒たちの元気な声が響き渡ります。

同窓生の皆様にはお元気で、ご活躍のこととお喜び申し上げます。
平成21年に佐用高校の歴史の大きな節目である創立100周年を迎えました、同窓生の皆様より多大のご支援をいただき、同窓会館の改築や記念式典等を催してから、早いもので6年が経過しました。私も昭和44年に卒業しました。はや46年が過ぎ去ったこととなります。

さて、同窓会報「塔陵」も、かつて先輩達の思い出と母校をつなぐ唯一の機関紙として三十数年前に発刊されました。その後、農蚕学校男子部・女子部・定時制・地域開発科・農業科・畜産科・家政科・普通科等の多くの皆さんから当時の思い出深い内容で紙面を飾って頂きました。

しかしながら、年一回の同窓会報の発行ですが、佐用高校の長い歴史を築いてこられた男子部・女子部の先輩たちも高齢になられ、昔の佐用高校を語っていただけでも少なくなり、原稿集めに苦慮しているのが現状です。楽しみに待っていたらいてはいる同窓生もおられるとよく耳にします。皆さんに広く協力を求め、今後も長く母校の現況をお伝えできるように、努めていきたいと思っています。

また、100周年を迎えた平成21年の8月に台風9号が佐用町を襲い、大きな被害があったことはご存じのことと思います。全国各地から1万数千人のボランティアの方々が、バスや家用車に自前のスコップや一輪車を積んで、復旧の手伝いにはせ参じてくださり、そして佐用高校も「ボランティアセンター」として、多くの方を受け入れました。何時間もかけて佐用町に來られ、汗にまみれ、一生懸命に泥出しを手伝ってくださり、今でも頭の下がる思いでいっぱいです。

その後の東日本大震災でのボランティアの方々の活躍が伝えられると、かつて佐用の水害時に大変お世話になったことを、昨日のように思い起こします。温かいご支援に少しでもお返ししたいとの切なる思いが伝わったのか、わが母校の生徒たちが参加者を募り、東北の地までボランティアに出かけます。本年は希望者が多く、定員を超え、参加することが叶わなかった生徒もいたと聞きました。

このような生徒たちの行動にも、水害を経験してから少しずつですが、温かいボランティアの精神が育ち、伝え続けられてきたような気がします。

後輩たちのボランティアの輪がもっと大きく広がっていくように、これから同窓会として支援していきたいと考えています。

新しい学びへの 移行について



校長
奥平 賢一郎

塔陵会の皆様には、平素より格別のご支援、ご理解を賜わり、厚く感謝申し上げます。平成二十五年度より「日に焼けたリーダーになろう」の掛け声のもと、当地域を、兵庫を、我が国を牽引できる人材育成を目標に、本校教育の充実に取り組んでいるところで

す。マスコミ等でご存じの通り、現在、高等学校はいくつかの大きな課題に直面しています。大学入試制度改革への対応（センター試験から新テストへの移行）、公選法改正に伴う選挙年齢引き下げに関する課題、少子化に伴う学校規模の課題など、国レベル、県レベルの課題が山積しています。教育内容でも「グローバル」とい

う造語が使われるように、「グローバル」と「ローカル」の観点からの見直しが求められるようになってきています。地球規模の広がりを示すグローバルと大都市圏に対する過疎化する地方という意味のローカルという言葉はまさに私たちの直面している課題であると言えます。

現在高校生である生徒の皆さんが社会で活躍する将来には、生産者年齢の減少やグローバル化の進展や絶え間ない技術革新等によつて社会や職業のあり方そのものが大きく変化するだろうと言われています。オックスフォード大学のオズボーン教授『雇用の未来』によれば、10年〜20年後には、科学技術の進歩によつて、今

ある仕事の約半数がなくなる予測しています。我が国の平成二十七年の18才年齢は119万人ですが、平成三十五年では106万人に、約1割減少します。日本の産業を支える人口が急激に確実に減少していく中、IT化し、ロボット化して、仕事が自動化していくのは必然のことと言えます。

このような現状を踏まえ、本校の農業科学、家政、普通科の三学科の教育のあり方について、変革が必要です。単に教科書の知識を身につけるだけではなく、状況に応じてその知識を「どう活用するのか」「どうすれば成果が上がるのか」など応用する柔軟性が求められています。そのためには「状況」を見る力が不可欠です。たとえば、農業分野なら、市場ニーズや流通、経営の視点です。普通科でも同様です。単に知識の切り売りに終わらず、生徒が調べたり、比較したり、議論したりする中で学んでいくことが必要です。

今年になって、アクティブ・ラーニングという言葉が盛んに使われるようになってきま

した。アクティブ・ラーニングとは、まさにこの考え方のことです。もちろん知識そのものも大切ですが、科学技術の革新的な発展のなか、高校や大学で学んだことは10年も経たないうちに、ほとんどが役に立たなくなります。新しい知識を得ることと同時に、どう使うのか、それを使って何ができるのかといった視点をもちことが大切です。本校では、めまぐるしく変化する将来においても、タフで粘り強いリーダーとなつて活躍できるように、一層の指導の充実に取り組んでいきたいと考えています。

今後ともご理解ご支援を賜わりますようお願い申し上げます。

祝 新記録!!

第22回ひろしま県央競技大会2015
会場 東広島運動公園陸上競技場
開催日 平成27年11月29日(日)
陸上競技部3年生 井上 友康
種目 男子10000m競歩
記録 42分38秒32
(兵庫高校最高記録を樹立)

青春の思い出

吉 本 真 須 己

高校10回生（昭和三十三年卒）

昭和三十年は、トランジスタラジオが大ヒット、電気洗濯機など家電製品も急速に普及、テレビも受信契約が拡大し、「神武景気」の始まりといわれる年でありました。

私は、高校進学にあたり、家から近い高校に進学するのへ入学しました。桜の満開の校庭で、集合写真を撮り、高校生活がスタートしました。教室は、本館並びの西端、木造の2階建ての一階でした。通

学の足は、自転車でした。自宅から学校まで約十二キロメートル、当時道路は無舗装の砂利道で、雨の日は水たまりがで、好天時は砂埃が舞うなか、とりわけ冬の寒さの中で登校（下り坂）、夏場は西日を背に受けての下校（上り坂）は、苦勞しました。

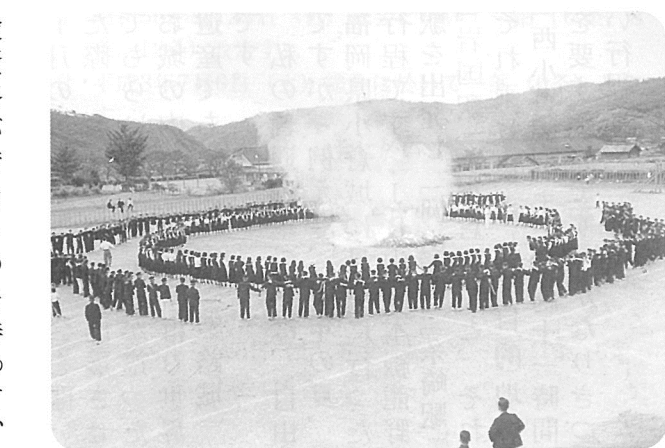
しかし、考えようによつては、自転車通学が、心身を鍛えることになったと今は思っています。

高校生活で印象に残っているのは、新聞部に所属し、大

阪の新聞社を見学したこと、体育祭で、高三の時、応援合戦で、大学の応援団をヒントに、今までなかったやり方で実践したこと、終了後、校庭で「ファイヤーストーム」をや、輪になって肩を組み、歌をうたつて、達成感と一体感を共有できたことです。それからもうひとつは、やはり修学旅行です。五月のはじめ頃だったと思いますが、



普通列車で関東へ、熱海で一泊、翌日、江ノ島、伊豆箱根を観光して東京へ、次の日都内観光をして、日光へ、中禅寺湖畔の旅館で宿泊しました。その時、旅館二階の隣室に、修学旅行で来ていた、福島県常盤市（現いわき市）の中学生と交流、帰校後、文通が始まり、社会人になってからもずっと続きました。そのことが、後の私の進路に影響があつて、国鉄入社のきっかけになったのかもしれない。



卒業後、自宅待機中に、三月十二日本竜野駅に来るよう通知をうけ、出勤、翌日、播磨徳久駅へ行くよう指示があり、ここが、国鉄職員としての出発点となりました。二月末まで学生服を着ていた高校生が、二週間後に、国鉄の制服を着て、初心者教育は一切なしのぶっつけ本番で、先輩諸氏が手取り足取りの指導であつたと思います。当時、姫新線は、昼間二往復の気動車を除き、SLけん引の列車でした。

当時の上司から、「けがのないように、また、しっかり勉強するように」と励まされ、受部内の通信教育を受講し、受

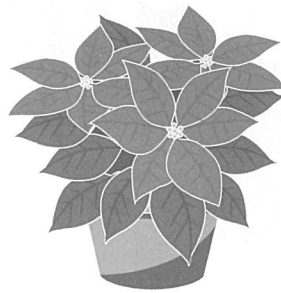
験資格ができるのを待つて、昇職試験を受けることになりました。卒後、姫路車掌区、一ヵ月後に神戸車掌区へ転勤を命ぜられて、ここから、寮生活が始まりました。私が、二十一才九ヶ月の時です。須磨鉄道寮は、山陽電鉄須磨駅の北側の高台にあつて、こじんまりとした、三十名程度の規模で、色々な職種の人と共同生活を楽しみました。とりわけ、夏場は「海パン」で海水浴場へ歩いて行けるし、春・秋には、須磨浦公園や、須磨アルプスを散策したり、鉄道寮対抗の野球大会に熱中したり、時には、新開地や、三

ノ宮へ繰り出したり、楽しい青春の思い出が、いっぱい詰まった時期でした。

昭和三十九年東海道新幹線の開業にむけて、列車の指定席が大幅に増加（当時は、コンピュータ化の前で、手作業でやっていました）、大阪乗車券センターが拡充されることになり、転勤を命ぜられ、ここから、管理部門への登用となりました。

以降、大阪鉄道管理局営業部、国鉄改革を経て、JR貨物関西支社と管理部門で定年になるまで四十二年にわたって勤め上げ、ふるさと佐用へUターンしたわけです。ふり返ってみると、長年にわたって、サラリーマン生活

を送り、無事卒業できたのは、健康な身体をくれた両親のおかげであり、また、その時々職場において、素晴らしい上司・先輩や、気心の知れた同僚、後輩のおかげであると感じ、深く感謝の気持ちでいっぱい。この感謝の気持ちを忘れないで、健康に留意しながら、今後の人生を過ごしたいと願っています。



青春18切符の旅と健康の大切さについて

山根伸一

高校21回生（昭和四十四年卒）

平成24年初夏、私が何気なしに書店に寄った際「おとなの青春18きっぷの旅」という本が目に入りました。ちよつと読んでみると、この「青春18切符」は、若い人だけの切

符ではなく、私達中高年も使える、便利な切符である事を知りました。私は、早速購入して切符の使用方法を熟知しました。「青春18切符」とはJRが、春・

夏・冬の3回発売し、発売期間は、「春休み」「夏休み」「冬休み」と、学生、生徒の休み期間と重複しています。値段は、小学生も大人も同じ「一万八五〇円」です。乗れる列車は、普通列車だけで、新幹線・特急列車等は乗れません。一日1回として、5回分（5人分）で、先程の金額です。一日中乗り放題、乗り降り自由な便利な切符です。

私は、中学時代から日本史が好きで、戦国時代の本は良く読みました。当時造られた「お城」にも興味がありました。私は「青春18切符」を使って、「全国のお城巡りをしよう。お城の写真を撮ろう。美味しい



駅弁を食べよう。」と決め、切符を購入しました。

そして、春と夏に発売される「青春18切符」を使い「日本100名城」の内32名城を巡り、写真に収めています。

私はその都度、フェイスブックにお城の写真等を投稿しています。また、今秋友達が、上月の古民家で展示会を開いた際、お城の写真を展示させてもらいました、私が巡ったお城の内、一番はやはり世界遺産でもある国宝「姫路城」です。

私の普通列車の旅は、自由ですが、例えば、今年の夏、福岡県小倉城に見学に行った行程です。JR山陽本線龍野駅を出発し「岡山駅」「糸崎駅」「岩国駅」「小倉駅」と、それぞれ乗り換えして目的地の「西小倉駅」まで、約十一時間を要する旅です。かなりきつい行程です。



私は、日本一周する夢があります。
私は「人はいつまでも、夢を持たなければならぬ。それには、健康でなければならぬ。健康が、夢を実現する手段である。」と聞いています。
足が、腰が痛いと言っている。普通列車の旅は出来ません。ボケてもいられません。
JR時刻表の本から、旅の行程を作成しなければなりません。乗るべき列車の時刻・路線を、間違え事は許されません。肉体的にも精神的にも健康

でなければなりません。
私は、この切符を使い、小学校時代の友人と、小学時代の修学旅行先である「高松市の栗林公園」を訪れ、当時を思い出しました。また機会をみつければ、中学時代の修学旅行先でもある「京都・奈良」方面も訪れたいと思っています。
最後になりましたが、佐用高校同窓会員の皆様、元気な中高年の会員の皆様、「青春18切符」で、自由でのんびりした普通列車の旅を、味わってみてはいかがでしょう。

改めて高校生活を振り返ると

平田 秀三

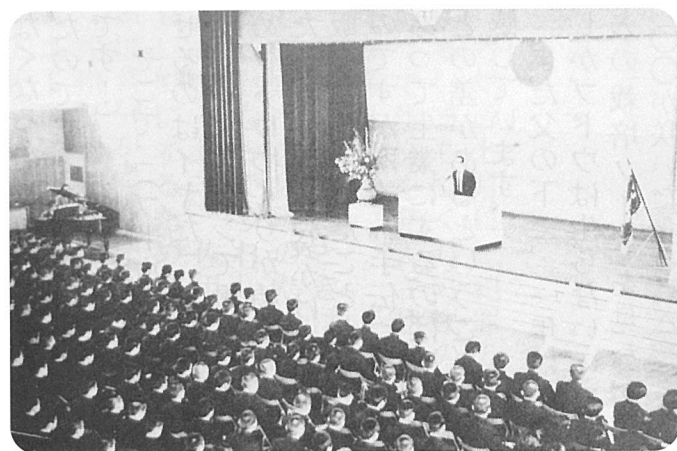
高校24回生（昭和四十七年卒）

十年ひと昔とよく言われますが、では四十五年前となると「何昔」と言うのでしょうか。

私は幼い頃から音楽が大好きでした。中学三年間は野球部に所属し、三年生の夏に部活を終わると、数名の友達と音楽室でトランペットやトロンボーンといった楽器を吹いていました。
そのため高校に入学した暁には吹奏楽部に入部しようと心に決めていました。

入学後の入部受付当日、音楽室に入部届を提出し教室に帰ってみると、当時のバスケット部の顧問の先生があわてて教室に入ってきて「平田、はよこつち来い」と職員室に引っ張られました。そこで説明（何もわからない私には説明）され、結局のところバスケット部に入部させられました。その理由はただ単に背が高かったそれだけです。つまり私の吹奏楽部の入部期間はわずかか半日でした。

その後体調を崩し、結局夏休み頃にはバスケット部も退部することになりました。
次に帰宅部となった私に声をかけてくださったのが一年先輩でした。
「吟詠同好会に入らないか」吟詠が何かわからないまま入部し、一つ二つ吟じた記憶はありますが、これもまた長くは続きませんでした。
こうして高校時代のすべての部活動は中途半端に終わってしまい、何も身に付きませんでした。
この経験がものを言ったのか、大学に入ると大好きな音楽、中でもギターのとりこ



昭和46年度学生団会



なり、学業そつちのけで技術の習得と演奏活動に明け暮れる日々を過ごしました。
途中何度もやめようかと思ったことがありましたが、高校時代に何一つ最後までやり遂げたことが無かったことを思い出し、卒業後までも演奏活動をつづけました。
就職して忙しくなるにつれ、ギターを弾く時間が少なくなり、今では埃をかぶっているですが、学生時代に熱中した記憶だけが残っています。
今考えると、高校・大学時代の部活動経験は、何が成功で何が失敗なのかいまだにわかりませんが、懐かしい思い出です。

還暦が過ぎ、第二の人生を歩み始めた今、今回の原稿を書きながら懐かしい高校・大学時代に出会った人々の顔を

思い出させていたいただいたことに感謝申し上げます。

無駄な経験はない

藤 東 芳 光

高校51回生（平成十一年卒）

私は現在、神戸からUターンして四年目でブドウの栽培販売をしています。祖父の代からブドウを栽培しており約40年、私で三代目です。

物心が付く頃には秋になるとブドウを食べ、10歳くらいになると袋かけや田んぼなどの手伝いもして育ちましたが、佐用高校の卒業を機に『外』を知りたいというのもあって神戸の大学に進学しました。

そこで初めてバイトをするのですが、小さい頃から美味しいものを食べて育ってきたので食に関係するということが、ファミレスでバイトを始めた。

料理の鉄人“や”王様の 레스토랑“等を見ていたのでその影響もあったのでしょうか。

料理を作るのが楽しくて大学生活の大半はバイトに明け暮れていました。すっかり料理を作ることにハマってしまっただけで大学卒業後は調理師の専門学校へ通うことにし、レストランに就職しました。

ホテルや街の洋食屋さんでフレンチやイタリアンや洋食を作っていました。特に楽しかったのがLINEで、あまりにもハマり過ぎて、本場のホンモノを“ということでもナポリにまで行ってしまうたり…

そうこうしてやりたいことをしていたのですが、四年前に転職が訪れます。

父が入院したのです。父は早期退職をして祖父のあとを継いでブドウを栽培していたのですが、もしかしたら出来

なくなるかもしれない状態だったのです（今は私以上に元気です！）。

そこで「（ブドウを）終わらせるのはイヤだ」ということで、レストランで働くのを辞めブドウづくりが始まりました。学生時代に袋かけや収穫・販売を手伝ったことがあったのですが所詮、手伝った“であって生業にするのは天と地との差があるということを痛感しています。

まだ父の下で、一年に一度しかブドウは生らないので過去の栽培ノートを見ながら「〇〇が咲いたから△△をする」などの気候、天気を読んだり段取りを組んだり、お客様へ手紙、ハガキ、電話等の対応も怠ってはならない事などを勉強中です。売り方、販売先も試行錯誤中です。

研修や勉強会にも出来るだけたくさん参加しています。自分の『枠』を大きくするためです。一人だけだと一通り、十人だと十通りの考え経験があります。

異業種の方の農家とは違う切り口もまた、オモシロク思えます。あるセミナーで「*＊しか出来ない」と「*＊も出来る」だったらどっちがい

い？」といわれたので、色々なことを挑戦してみたいとも思います。せっかくなので、コックの経験を生かして農家レストランなんか面白いかな？佐用町産の食材を使ったりして、と。あれこれ考えて思いをはせて想像して、巻き込み巻き込まれてこれからは頑張っていく予定です！



在校生だより

さまざまな行事を通して

第一学年 山元みゆき

入学して一番最初の行事である集団宿泊研修は、嫌で嫌で仕方なかったというのが正直な感想でした。でも、今となればどれもいい思い出です。集団行動訓練を240人全員でやるのは初めてだったのだから、やり得るのか心配でした。

でもそんな心配をよそにほとんどの人がきちんと声を出して、注意されても素直に受け入れて行動に移せていたと思います。その後の座禅は、とても貴重な体験をさせてもらえたなと感じました。普段生活しているとなかなか自分を見つめ直す機会がないけれど座禅をすることにより、心がすくく落ち着きました。たまには自分と向き合うことも大事だなと思いました。

校歌コンクールでは、優勝はできなかったものの、一人一人が声を出してがんばれた

のでよかったです。

二日目のカッター訓練は分らないことだらけで不安でいっぱいでした。しかし、班ごとに分かれ説明を聞いてやっていくうちに楽しくなってきました。

レースが始まる前はドキドキしたけど、いざレースが始まるとあつという間に時間が過ぎていってしまいました。途中で男子が励ましてくれたのは心強かったし一位になったのも班の子のおかげなので、感謝でいっぱいです。

また、一大イベントである塔陵祭はすごく興奮しました。クラス展示は、全員で協力して準備して放課後も残って黙々と作品を作り上げました。

私たち一年四組は、カラーセロハンを使ってステンドグラスを作りました。当日見に来てくださった人に「綺麗!!」

と言われたのが嬉しかったことを覚えています。

他クラスの展示も、おもしろいと思うものからすごいなと思うものがあり、それぞれのクラスの良さが出ていたなと思いました。三年生のステージ発表はどれも良くて感無量でした。どこのクラスも全員で楽しんでいる感じがして、見ているほうも楽しかったです。

集団宿泊研修では、二日間

ルールを守って

交通事故のない町を

第二学年 村上 絢音

今年の七月に「犯罪のない明るいまちづくり町民のつどい」で作文を発表させていただきました。

最初選ばれたときは驚きでしたが、佐用町のためにできることなのでうれしく思いました。そして、佐用町をより良い町にするためにはどうすれば良いかと考えました。

佐用町は安心できる町で、ニュースになるような事件はありません。一番の問題は、

の研修を通してクラスの仲が深まったと思うし、二日間ががんばった!!という達成感を味わうこともできました。更に塔陵祭でより一層仲良くなれました。

これからの行事をやっていくなかで、やればできる“という自信もついたような気がします。私たちにとって、とても意味のある行事になったと思います。

交通事故だと思いました。

佐用町は公共交通機関が少なく、どこに行くにしても車がないと不便です。そのため、車や自転車の事故が多いです。

だから、内容は「佐用町での交通事故を減らすためにできること」でした。

作文を発表した後、地域の方から「良いこと言うな」と声をかけていただきました。たくさんの方に聞いていただけたということを実感しました。

その方々に、交通ルールについてでも考えていただけたのかもしれないと思い、作文を発表して良かったと思いました。

私は、将来警察官になろうと考えています。夏休みのインターンシップでは、佐用警察署で実習させていただきました。

駐在所では、駐在所がある地域に密着して、道案内をしたり、毎日決まった時間に見回りをしたりと、地域の安心、安全のために活動されていました。

地域の交通安全教室に参加させていただいた際には、警察官の方の話と自分の作文の内容が合致する部分がありました。

自分の考えていることが交通安全のために気をつけるべき大切なことであると改めて思いました。警察官の方が佐用での事故を減らすために、地域に出向いて啓発活動をされている姿を拝見して、改めて尊敬しました。

また、自分も今できることをしていこうと思い、自転車と並走している人を見かけた

ときには注意を促しています。警察官になったら、インターンシップで学んだように、定期的に見回りをしたり、小さな集落にも行き高年齢の方のための交通安全教室を開いたりします。そのような活動の一つひとつ積み重ね、事故を減らし、安全に過ごせる町づくりにつなげていきたいです。

作文を発表させていたたいこと、私自身も交通安全について考えることができて、とても良い機会になりました。本当にありがとうございます。

いないところがわかったので、視野を広げて行動することが大切だと実感しました。

塔陵祭の準備期間に学んだことは、色々なことを両立させるには優先順位を考えて行動すること、何もかもを成功させるには自分一人ではできないということ。準備以外でも特別アルバイトや勉強も行っていたため、計画を立てて一つずつ終わらせていくことが物事をスムーズに進めるためには大切だとわかりました。

高校生活を振り返って

第三学年

森崎 夏妃

三年間の高校生活を振り返ってみると長いようであつという間でしたが、とても充実したものでした。

私が家政科で過ごしてきた一番印象に残っていることは、塔陵祭で行ったファッションショーです。二年生の三学期から衣装製作を始めました。私は、ウェディングドレス

や和服ドレスを含めた四着を完成させました。四着ともデザインを考え、型紙を引く作業から始めたため、とても時間がかかりました。また、三年生になってからはウォーキング練習や当日のフォーメーションなども休み時間、放課後を使って考えました。意見が合わない時も多々ありまし

たが、当日はみんなが楽しそうにしていたので、時にはぶつかることも大切だということ、改めて実感することができました。

また、私は生徒会活動も行っていたためファッションショーの準備と当日の準備も同時進行していました。実行委員に指示する際、どうすれば伝わりやすく、効率的に作業ができるようになるかを考えました。その時、周りをよく見て行動することで人手が足りて

また、集団で何かを取り組むときは自分の意見だけでなく、他者の意見を取り入れていくことでより良いものができることがわかりました。

私は来年から社会人となり、接客の仕事に就く予定です。高校生活で学んだことを活かして、お客様に喜んで頂けるように、先輩方と協力して頑張りたいです。



佐用高校塔陵会会則

(第1章 総則)

- 第1条 本会は兵庫県立佐用高等学校塔陵会と称する。
- 第2条 本会は事務所を兵庫県立佐用高等学校内に置き、地区別に支部を置く。
- 第3条 本会は会員相互の親睦向上を図り母校の発展に寄与することを目的とする。
- 第4条 本会の目的を達するため下記の事業を行う。
- 1 会報及び会員名簿の発行
 - 2 研究並びに修養に関する会合の開催
 - 3 母校の各種事業の後援
 - 4 会員の慶弔に関すること
 - 5 その他必要と思われる事業

(第2章 会員)

- 第5条 本会々員を下記の4種とする。
- 1 通常会員 佐用郡立佐用農蚕学校卒業生
兵庫県立佐用農蚕学校卒業生
兵庫県立佐用高等学校卒業生
 - 2 準会員 兵庫県立佐用高等学校在校生
 - 3 特別会員 母校の現在職員
 - 4 客員 母校の旧職員並びに学校団体功労者又は篤志者で本会役員会で推薦したもの。

(第3章 役員)

- 第6条 本会に下記の役員を置く。
- 1 会長 1名 会員中より役員会で候補者を選出し総会で選任する。任期2ケ年、但し留任をさまたげない。尚改選期の通常総会が任期満了後に行われる時は、任期満了後といえどもその年度の属する通常総会迄その任務を遂行するものとする。
 - 2 副会長 4名 会員中より会長の推薦により総会において選任する。任期2ケ年但し改選期の通常総会が延引した場合は会長任期の但し書に準ずる。
 - 3 支部長 各支部において選出し、会長はこれを委嘱する。
 - 4 支部委員 各支部において若干名選出する
 - 5 代議委員 每期卒業生より代表2名選出する。
 - 6 会計 1名 校内委員より会長これを委嘱する。任期1ケ年。
 - 7 書記 1名 校内委員より会長これを委嘱する。
 - 8 顧問 顧問は総会において推薦し、会長これを委嘱する。
 - 9 監事 3名 支部委員、代議委員中より選出し、会長これを委嘱する。
 - 10 校内委員 校内会員中より若干名を選出する。
- 第7条 本会役員の任務は下記のとおりとする。
- 1 会長 本会を代表し、会務を処理する。
 - 2 副会長 会長を補佐し、会長事故あるときはこれを代理する。
 - 3 支部長 各支部の会務を掌り本部との連絡提携をはかる。
 - 4 支部委員 その支部の会務を掌り支部長との連絡提携をはかる。
 - 5 代議委員 当期の代表として本会運営に参加する。

- 6 校内委員 事業の企画遂行につき協議参与する。
- 7 書記 本会与母校の連絡提携をはかり本会運営を助ける。
- 8 会計 本会の会計を掌る。
- 9 顧問 顧問は会長の諮問に応える。
- 10 監事 本会の会計を監査する。

(第4章 会議)

- 第8条 定時総会は毎年母校において開催する。
総会は出席の多寡に関わらず成立し、議決は出席者の過半数による。
総会における議長は当日出席の会員中より選出する。
- 第9条 役員会は会長これを招集する。
本部役員会は会長、副会長、監事、校内委員を以て構成する。
正副支部長会は正副支部長及び本部役員を以て構成する。
- 第10条 役員会は下記の事項を管掌する。
予算及び決算に関すること、総会及び親睦会・支部大会に関すること、会則の変更改廃に関すること、その他必要と認められる事項。
- 第11条 本会員は身上住居などに異動を生じたときは直に本部にその旨通知する。

(第5章 会計)

- 第12条 本会の経費は入会金、会費及び特別会費並びに寄附金を以て充てる。
- 第13条 準会員となったとき会費として毎月300円納入するものとする。
2 準会員は本会の入会金として、1,000円納入するものとする。
- 第14条 本会の会計年度は毎年4月1日より翌年3月31日までとする。
なお、総会までは、役員会の承認を得て、暫定的に予算執行出来るものとする。

(第6章 附則)

- 第15条 本会会則の変更改廃は総会の承認を経ることを要する。
- 第16条 本会会則に付帯する細則は役員会においてこれを別に定める。
- 第17条 補則
- 1 昭和56年8月23日(日)総会に於いて一部(6条、8条、12条)改定す。
 - 2 平成3年7月6日(土)総会に於いて一部(6条)改定す。
 - 3 平成9年7月5日(土)総会に於いて一部(12条、17条)改定す。
 - 4 平成10年7月18日(土)総会に於いて一部(13条)改定す。
 - 5 平成22年8月21日(土)総会に於いて一部(4条、8条、12条、13条)改定す。
 - 6 平成24年7月28日(土)総会に於いて一部(1条、6条、7条、8条、9条、14条)改定す。

教頭 原田尚昭

○県総体
 男子団体ベスト16
 (大西北川日浅西門田中船曳)
 ○西播新人大会
 男子シングルス ベスト32(福田)
 ○《男子バレーボール》
 大半の選手が高校からバレーボールを
 め、各大会で上位を目指し頑張っています
 ○前期西播総体
 1回戦 0-2 姫路東
 ○前期リーグ戦
 4部B 2-2 3位
 ○後期リーグ戦
 4部B 2-2 4位
 ○県総合体育大会
 1回戦 0-2 姫路東
 ○《女子バレーボール》
 ○前期西播総合体育大会
 1回戦 佐用 2-0 姫路飾西

《男子バスケットボール》
○西播地区高校 出場
新人バスケットボール大会
○秋季西々播高等学校 出場
バスケットボール 出場
公式戦 勝目指して頑張っています

7 6 5 4 3 2 1
區區區區區區區
眞嶋小井中山
上田林上野本
雄悠幹友昌
軍健佑太康聖平
(1)(3)(3)(3)(2)
佐新佐佐佐
野宮用用用
夏

○女子シングルス 4 回戦出場（大浦田中）
西門 日浅
北川 四戰
○西播大会男子シングルス
《バドミントン》
1 回戦敗退 対龍野北
○秋季西々播大会
1 回戦敗退 対龍野北
○西播新人大会
Dリ1グ 出場
○兵庫高校総体
2 回戦敗退 対東上付属
1 回戦勝利 対姫路別所
○前期西播大会 Dリ1グ
《女子バレーボール》

[illegible]

○第12回 高校生英語唱譜大会
1年 北川 魁人

○「JRC」
○「ダンス。ゼツタイ。」普及運動ヤング街
頭キャンペーン

○朝陽丘丘荘 納涼祭ボランティア
○いちよう園運動会ボランティア
○赤い羽根共同募金会ボランティア
○播磨園祭ボランティア
《吹奏楽》

○佐用町さくら祭り 演奏
○入学式入退場演奏
○中庭演奏会
○第一回定期演奏会

○塔路祭 演奏
○第10回 犯罪のない明るい町づくり町民の
つどい 演奏

○兵庫県吹奏楽コンクール西播地区大会金賞
○オーブ・ハイスクール 演奏

○体育大会 演奏

○後期西播大会	2回戦	佐用	3/4	明石
○団体戦	1回戦	佐用	1/2	市姫路
○ソフトボール				
○後期西播大会	1回戦	網干・姫路西合同		
2回戦	4/2	上都		
1回戦	3/13	姫路商業		
敗者復活戦				
1回戦	2/7	賢明		
《剣道》				
《特になし》				
○《柔道》				
○前期西播大会				
○後期西播大会				
男子100kg超級	第3位	嶋田		哲吏
男子100kg超級	第3位	嶋田		哲吏
男子100kg超級	第3位	嶋田		哲吏
文化節(主な活動)				
《ESS》				
○塔陵祭(Charity Candy Sale)				
○第33回西播磨高校生				
英語スピーチコンテスト				

第141節	1 4	姫路節西
○兵庫県選手権大会	0 3	赤穂予選
1 回戦	2 1	福岡
2 回戦	0 0	(PK 6 7)
《卓球》		相生
○兵庫県総合体育大会西播予選		
女子	予選通過	県大会へ
男子	予選通過	県大会へ
○兵庫県新人選手権大会		
女子	ベスト8	県大会へ
男子	ダブルス	
《男子ソフトテニス》		
松井・中橋ペア	県大会へ	
○後期西播大会		
団体戦	佐用	0 3
《女子ソフトテニス》		
前期西播大会		
団体戦	2 回戦	佐用
2 回戦	2 回戦	佐用
敗者復活戦	佐用	0 2 1
○兵庫県民大会		
個人戦	村上・松本ペア	0 2 2
		琴丘
		播磨
		太子

[illegible]

○第243回兵庫県高等学校将棋選手権大会出場
 ○第222回兵庫県高等学校将棋選手権大会出場
 ○第228回播磨但馬地区高校将棋大会
 ○第394回兵庫県高等学校総合文化祭
 将棋部門 出場
 《華道》 参加
 塔陵祭 参加
 《茶道》
 ○佐用町さくら祭り 茶席ボランティア
 塔陵祭 呈茶(優秀賞)
 ○姫路「好古園」茶席ボランティア
 ○さよう文化祭 茶席ボランティア
 ○兵庫県高等学校茶道研鑽会 参加
 《琴》
 4月 佐用町さくら祭り
 6月 塔陵祭参加
 9月 第22回観月の日々
 11月 清流の郷音楽祭
 《写真》

○佐用町社会福祉協議会合併10周年イベン
ト演奏
 ○第53回西播吹奏楽祭 演奏
 ○上月城ふるさと祭り 演奏
 ○第39回兵庫県高等学校総合文化祭吹奏楽
部門演奏会 演奏
 ○第50回西播高等学校吹奏楽演奏会 演奏
 ○第43回兵庫西部地区農産物フェア 演奏
 ○第3回兵庫県アンサンブルコンテスト
出場
 ○第26回アンサンブルコンサート 出場
 ○佐用町手をつなぐ育成会クリスマス会
演奏
 ○第2回佐用町吹奏楽演奏会 出場
《美術》
 ○兵庫県高等学校総合文化祭美術工芸部門
展出品
 ○西播高校美術展 出品
 ○姫新線マナーアップキャンペーンポスター
原画採用法 2年 春名 風我
 ○南光瑠璃寺巨大絵巻制作
 ○姫新線駅舎アート制作
 木崎自治会いまつり町田昌坂デザイン

9月	交通安全実習 マスコット配布 就業体験実習報告会
10月	西はりまオータムフェスタ（ケーキ販売） ふれあいクッキング （1年 利神保育園）
11月	佐用町文化祭（フアッシヨンシヨール・ケーキ販売） ふれあいクッキング （2年 佐用小平福瓜生原邸にて） Savo High School Cafe 開催 ふれあい保育（3年 佐用保育園） 兵庫県総合文化祭（フアッシヨンシヨール・ケーキ販売） 三日目味わいの里祭（ケーキ販売） リバーシティで学校紹介（フアッシヨンシヨール・ケーキ販売） 施設訪問（フアッシヨンシヨール）

3	その他の活動
7月	《学校農業クラブ》第63回入会式 農業鑑定競技農業部門
10月	優秀賞 横山 悠河 富田 裕紀
11月	会群馬大会 第66回日本学校農業クラブ全国大会 農業鑑定競技農業の部出場
12月	3年 横山 悠河 富田 裕紀 收穫感謝祭
1月	《学校農業クラブ》感謝即売会
4月	さくら祭り（ケーキ販売） 家庭クラブ総会
5月	家庭の日プレゼント製作 塔陵祭（ケーキ販売）
6月	就業体験実習（2年）
7月	ひまわり祭り（ケーキ販売）
8月	県高等学校家庭クラブ総会・指導者養成講座参加
9月	家庭クラブ活動発表 発表者・見学者

入選 2年 山根 真理
○西播支部写真展（予定）
2月28日～2月7日 イオンタウン姫路の階
《書道》
○塔陵祭 書道バフォーマンス
○第21回国際高校生選抜書展
入書の甲子園V出品
○第39回兵庫県高等学校総合文化祭書道出品
○西播圈高原文化祭 書道バフォーマンス
《科学同好会》展示
○塔陵祭 100円ショップ大実験
○千種川一斉水温水質調査 参加
○千種川一斉水生生物調査 参加
《コンピュータ同好会》
○塔陵祭 “ストツプモーション”
《放送同好会》作品発表
○塔陵祭 作品発表
○第65回犯罪のいまちづくり町民
のつどい 司会進行
○体育大会 放送担当
人権まちづくりフェスタさよう2015
大会進行

平成27年度 在籍生徒数

(11月1日現在)

	1 年	2 年	3 年	計	学級数
普 通 科	1 5 8	1 4 5	1 4 3	4 4 6	1 2
農業科学科	4 0	3 8	3 7	1 1 5	3
家 政 科	4 0	3 4	3 1	1 0 5	3
合 計	2 3 8	2 1 7	2 1 1	6 6 6	1 8

進 路 状 況 平成26年度 (67回生)進路状況

		合 計			農業科学			家 政		普 通		
		男	女	計	男	女	計	女	計	男	女	計
卒 業 者 数		124	100	224	31	3	34	36	36	93	61	154
進 学	大 学 (通信制含む)	43	28	71	2	0	2	5	5	41	23	64
	短 期 大 学	0	8	8	0	0	0	0	0	0	8	8
	専 修 ・ 各 種 学 校	29	21	50	7	0	7	6	6	22	15	37
	そ の 他 ・ 未 定	1	1	2	0	0	0	0	0	1	1	2
計		73	58	131	9	0	9	11	11	64	47	111
就 職	民 間 企 業	41	35	76	20	2	22	22	22	21	11	32
	公 務 員	3	0	3	0	0	0	0	0	3	0	3
	縁 故	4	5	9	0	1	1	1	1	4	3	7
	家事手伝い・その他	3	2	5	2	0	2	2	2	1	0	1
計		51	42	93	22	3	25	25	25	29	14	43

12月 感謝即売会(ケーキ販売)
12月 東北支援クリスマスプレゼント作成
12月 家庭クラブ総会
12月 施設訪問(2年)
* 随時各種コンテストに応募
随時 鉄人バランSNS弁当コンテスト
ライオンズクラブ賞
《生徒会》
○ 塔陵祭：テーマ「あゆむ」次に繋げるその一歩
○ 交通安全マスコット配布
○ 赤い羽根共同募金
○ JRマナリーアップキャンペーン
○ あいさつ運動
○ 校内義援金活動の実施
○ 校内昇降口にて関東・東北豪雨災害への義援金を募り、約一万円を日本赤十字社兵庫支部へ預託
《ボランティア活動》
○ 東日本大震災復興支援ボランティア活動(7月10日金～12日日)
宮城県石巻市被災地に花の植栽
生徒22名、教員3名、計25名
東日本大震災復興支援ボランティア活動報告会 9月30日(水)
《読書感想文》
○ 平成27年度 播磨西高校読書感想文コンクール佳作 1年 岸本 詩織(勇気を持つこと)

平成 26 年度 同 窓 会 会 計 決 算 書

収入総額 7,449,844円

支出総額 5,092,314円

差引残額 2,357,530円……次年度繰越

収 入 の 部

(単位 円)

科 目	予 算 額	決 算 額	増 減	摘 要
繰 越 金	4,234,290	4,234,290	0	
会 費	2,469,600	2,403,300	△66,300	300円×8011人(延べ人数)
入 会 金	240,000	240,000	0	1,000円×240人
繰 入 金	0	0	0	
雑 収 入	718	572,254	571,536	寄附金、預金利息、名簿代
計	6,944,608	7,449,844	505,236	

支 出 の 部

(単位 円)

科 目	予 算 額	決 算 額	残 額	摘 要
会 議 費	110,000	61,887	48,113	講師謝礼 総会・役員会お茶代
部 活 動 後 援 会 費	200,000	200,000	0	部活動後援会費補助
負 担 金	600,000	600,000	0	佐用高校を育てる会、国際交流補助
通 信 費	50,000	11,747	38,253	切手、はがき代 資料発送代
広 報 費	2,300,000	1,434,158	865,842	会報「塔陵」印刷、発送代、寄稿お礼
支 部 活 動 費	140,000	132,000	8,000	各支部へ(20支部)
体 育 奨 励 費	50,000	10,000	40,000	図書カード(2名)
旅 費	50,000	0	50,000	
会 館 維 持 費	450,000	338,472	111,528	塔陵館備品、修理代、消耗品費
雑 費	50,000	20,800	29,200	慶弔費
予 備 費	944,608	283,250	661,358	東日本大震災復興支援ボランティア活動補助ほか
積 立 金	2,000,000	2,000,000	0	兵信100万、淡陽100万
計	6,944,608	5,092,314	1,852,294	

同窓会の動き

副会長 矢内 作夫
 高校20回生(昭和四十三年卒)

平成27年
 4月8日(水) 第70回生入学式
 6月24日(水) 第1回本部役員会
 7月25日(土) 平成27年度 塔陵会総会
 10月15日(木) 第1回『塔陵』第37号 編集委員会
 11月26日(木) 佐用高校を育てる会
 12月1日(火) 第2回『塔陵』第37号 編集委員会
 12月15日(火) 同窓会報『塔陵』第37号発行
 平成28年
 2月26日(金) 同窓会 入会式
 2月27日(土) 第68回生卒業式

塔陵会(同窓会)総会について

去る、七月二十五日(土)に塔陵館において、塔陵会(同窓会)総会が開催されました。議案については提案のとおり承認されました。
 続いて、記念講演会があり、前同窓会長であり兵庫県森林組合連合会代表理事会長、石堂則本氏に貴重なご講話をいただきました。
 同窓会総会が会員にとって、より身近なものとなり、同窓会活動が一層盛り上がるようにと、同窓会会員全員を対象に同窓会総会を七月に行っています。
 会員の皆様のご参加をお待ちしています。

平成二十七年

新役員・新代議員

【同窓会本部役員】

会長 谷本 学
 副会長 矢内 作夫
 " 花 高 昭
 " 福 本 美 子
 " 小 林 君 江
 監 事 塚 崎 康 則
 " 小 野 功 記
 " 分 元 彰 宏

【新正副支部長】

石井東支部 副支部長 濱田 一志
 久崎支部 支部長 芳原 清和
 一宮支部 支部長 植田 聡
 美作支部 支部長 長瀬 清人
 副支部長 清人

平成二十七年職員人事異動

◎転退職(新所属)

校長 奥 平 賢一朗
 教頭 原 尚 昭
 事務長 花 高 勉
 教職員 井 村 唯 夫
 稲 田 久 富
 平 田 幸 二
 春 名 隆 行
 上 村 昌 史
 谷 口 正 彦
 敏 森 裕 子
 事務局 藤 木 裕 子

山口 壽子(退職)

播磨西教育事務所

児島 義人

但馬農業高校

岡 村 真 輔

相生高校

平 賀 直 志

星陵高校

門 口 絵 美

姫路飾西高校

向 井 康 晴

物故者

中 瀧 健 一

上郡高校

白 瀧 泰 宏

伊丹北高校

細 川 雅 代

阪神教育事務所

武 友 千 草

西脇工業

金 礪 み か

退 職

宮 下 将 明

退 職

◎転入(旧所属)

池谷 龍野高校
 黒川 泰 佑
 千種 征 治
 孝 橋 征 治
 但馬農業高校
 原 田 尚 昭
 千種 尚 昭
 花 高 勉
 赤穂特別支援学校
 妙 見 律 子
 八鹿 佳代子
 宮 本 佳代子
 網干 佑 樹
 青 木 佑 樹
 家 島 友 映
 伊 賀 友 映
 新 規 採 用
 小 寺 由 夏
 新 規 採 用
 下 馬 場 篤 典
 新 規 採 用
 平 見 隆 成
 新 規 採 用
 森 下 友 利 加
 新 規 採 用
 吉 竹 正
 神 戸 高 塚 高 校
 石 田 育 代
 兵 庫 県 播 磨 高 校
 井 上 真 知 子
 太 子 高 校
 宮 本 裕 見 子
 新 規 採 用
 竹 口 真 吉
 新 規 採 用
 木 村 洋 介
 新 規 採 用
 赤 松 俊 之 介
 新 規 採 用

編集後記

姫新線が300人、智頭線が100人、なんと全校生の60パーセントが電車で通学しているそうです。友達が十数kmの道を自転車で通ったことも、昔の話になってしまいました。学区の再編で更に変わっていくそうですね。

(T)

同窓会ニュース

同窓会のホームページを開設しました。内容は同窓会ニュース、同窓会だより(同窓会報「塔陵」)も掲載中です。是非ご覧ください。
 *ホームページアドレス
<http://www.hyogo-c.ed.jp/~sayo-hs/dosokai/index1.html>

佐用高校イメージキャラクター誕生!

